



吉野弘幸

最近、筋トレとウォーキングにハマり、山登りまで始めそうなイキオイで、こんな自分にビックリです (^^;)



佐藤健悦

歴史の授業は好きでした。子供の 頃ワクワクしていたロマンを急に へし折ってくるところに痺れます。 何か新しい発見があるたび昔習っ た定説をいっぺんにひっくり返し てくることがあって油断できない ところも。









ヒョウの製造。 とョウの製造。奴隷商人に売り飛ばされてしまうところをサクラに助けられ、以来カイやサクラと行動を共にする。



カイ・ワタリ

異世界に召喚された"恭公"。※22年 アルビオン軍人グレイの姿を借り、数々の軍功を立てる。



ドルネア

ガランドア統領・ハヴォルの妹。乳房にイフリートの力を宿す"神妃"。一見 淑やかだが、戦闘となれば巨大なハンマーで敵に立ち向かう強さを持つ。



ハヴォル

ドワーフの国・ガランドアの統領。ドルネアの兄。優れた鍛冶技術や冶金術を有しており、様々な工業製品・兵器を開発できる。



セレア・イグニス

ハーフリングの錬金術師。幼い少女に見えるが、中身は大人。カイが稀人 と知り、異世界の技術に興味を持つ。

【華粱の人々】





銀蓮妃 三后妃の一人。サクラに カーシャの絵を送ったと される人物。



珠翠 妃 三后妃の一人。代々、皇 帝に仕える大貴族の娘。



鄭詞 琳琅妃に仕える宦官。



| 芳太后 | 現皇帝・献智帝の母。病弱な息子に | 代わり、絶大な権力を握っている。



桃蘭 琳琅妃に仕える下女。



馬祥 芳太后に仕える宦官。

前巻までのあらすじ

生き別れ行方不明の姉・カーシャの絵が、突然サクラの元に届いた。送り主は華梁の三后妃の一人、銀蓮妃だということだけが分かった。居ても立っても居られないサクラは、ニアを連れて華梁の後宮へ潜り込むことに。

後宮内で銀蓮妃について二人が調べている最中、ニアが"怨霊騒ぎ"の犯人として捕らえられてしまった。ニアを助けるべく三后妃の一人である琳琅妃の侍女となったサクラであったが、皇帝陛下の突然の崩御で事態は思わぬ方向へ…!!

第85話 後継者問題

第86話 お告げ * 35

第87話 華**梁の歴史**

^{第88話} 受け継がれし文字 ** 99

^{第89話} 技術大国ガランドア * 129

^{第90話} ケーニヒの力 * ¹⁵⁹

初出/チャンピオンRED2024年6月号、8月号~12月号 ※この作品はフィクションであり、実在の個人・団体などには一切関係ありません。



































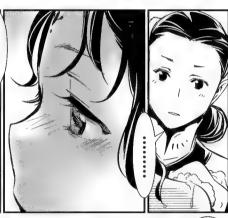




















は

ご無礼をお許し

ください





































実は――





















































































































































第87話/華梁の歴史











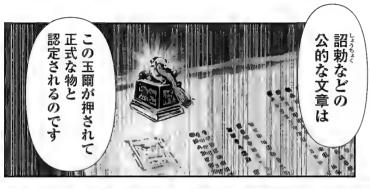
































































































神咒世界紀行

【神呪世界の言語と文字】

神話によれば、神々は皆同じ言葉を話し、そして、その言葉を綴るための文字 も存在し、その文字こそが、現在の魔法刻印や呪文に使われる"真呪文字"の、 さらに原型となる、いまでは失われた"神呪文字"であったという。

だが、神々が世界から去り、神代が終焉を迎えると、残された人間達にはそれら 『神々の言語』を完全に正しく発音・理解することはできず、その神々の言語の、 いわばダウングレード版が、現在の共通語の基礎となったものだと言われている。

この、基本的に世界共通だった神々の言語が基礎として存在するため、現在でも地方ごとに方言こそ存在するが、基本的な文法などに差異はなく、世界中でほぼ似たような言語が話されているため、どこにいっても、完全に言葉が通じずに困るということはない。

ただ、文字に関してはもう少し事情が複雑であり、一文字に高度かつ多層的な意味を内包した超高密度な表意文字であった"神呪文字"は人間には扱いされず、多少簡略化された"真呪文字"でもそれは同様であり、神代の終焉で世界の分断が起こったこともあり、文字は各地で独自に簡略化されてゆき、それぞれの地域・民族ごとに異なる文字が使用されている(もちろん、現在では貿易などの都合上もあり、世界各地で共通する表記、広く使われる、いわゆる"共通文字"も存在する)。

なお、神代にその土地にいた神が『神々の言語』以外の独自言語を持ってい



たり、自分を崇める民に独自言語を作らせたこともあったため、 まれに共通語以外の言語を使用する民族もあり、作中で語られる"龍刻文字"は、そういった神々による独自言語の一つであろうと推察される。

第88話/受け継がれし文字







































































































































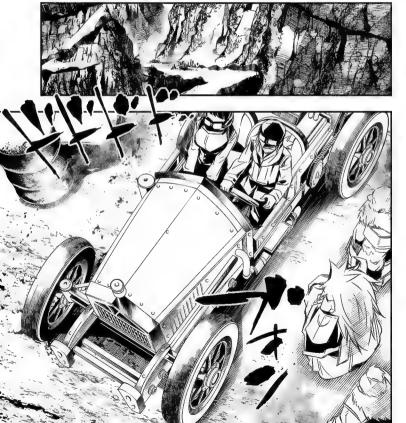








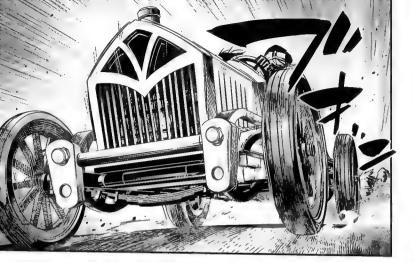






































































































ーケーニヒか

なりそうだな… をかなか









正気か叫

植民地分割の秩序を!! 作り上げてきた 避けるべく













































はい

休んでおくれやす

大変やろ













【鬼尸~華梁のアンデッド系魔物~】

この神呪世界でも、世界各地にアンデッド系の魔物の伝承は様々な形で存在し、華梁における"鬼尸"もまたそういった魔物の一つである。

ただ、神々の残した魔法が残存するこの世界においては、それは単なる伝承ではなく、現実のものとして存在することが多い。有名なところでは、フリード連邦の南にある、ブラル諸島に伝わる"ネクロア"や、ヤシマノ国の"亡骨"、ダーラの"ドグル"などがあるが、これらに共通するのは、そのほとんどが、神代の魔法など

を基礎とした呪術的存在であり、また『元は人間である』『不死、あるいは損傷に強い』『人間の生き血や生気などを摂取する』『なにがしかの弱点がある』等という点であるが、華梁に伝わる"鬼尸"に関しては、これらの詳細は不明である。



【フリード連邦】

かつて、アルビオンが発見した新大陸の植民地に移住した、多くの人々がいた。彼らのほとんどは、白エルフが支配種族として力を持ったアルビオンでは少数派だった、黒エルフ、もしくは混血などの人々であり、多くは生活に困窮し、それ故に新天地を求めた者達であった。

彼ら移住者は、原住種族を半ば駆逐するかたちで新大陸を開拓してゆき、 およそ二百年で大陸のほとんど版図とすると、広大な農地などによる生産力を 背景に力をたくわえ、やがてアルビオンの過酷な植民地支配に反発し、独立戦 争を挑むこととなる。

半世紀近く続いた独立戦争は、最終的に植民地側の勝利に終わり、新大陸植民地は国家として独立し、現在のフリード連邦の基礎ができあがる。

そして独立より百年あまりが経過し、現在では世界分割にも参加し、その国力を背景にランドルール列強に準ずる位置を占める列強の一つに数えられる国となっている。

前巻から数ヶ月のご無沙汰です。

「神呪のネクタール」第18巻、手にしていただき本当にありがとうございます!

× × ×

まだまだ宴もたけなわな感じの華梁編。ですがさすがに(主に私が) 我慢できなくなり、カイ君にはガランドアにお出かけしてもらい、久々 の呪乳シーンを描きました(佐藤さんが)。この里帰り編はドルネアが すごく可愛くてお気に入りです。

……ちなみに、"たけなわ"は"酣"と書くそうです。モノカキを四半世紀やってますが、いま初めて知りました。お酒が発酵して最高に甘くなる過程を示しているそうですが、物語の方は簡単には甘くはならず、サクラにはまだまだ華梁で孤軍奮闘してもらう予定です。しかし各国公使や謎の商人など、役者もそろってきまして、華梁編というか、この神呪のネクタールという物語そのものが、いよいよ盛り上がりの準備完了、上手く醸成されて極上の美酒となってくれるのか、いまからドキドキしております。

x x x

連載も、100話の大台がうっすら見えて参りました。おそらくゴールではなくひとつの通過点となるはずですが、そこまでも、そしてそれからもカイたちの活躍をお届け出来るよう精進してまいりますので、次巻も何卒応援のほど、よろしくお願いいたします!

神無月某日 吉野弘幸











神呪のネクタール個

2024年 12月25日 初版発行

著 者

吉野弘幸・作

©HIROYUKI YOSHINO 2024 さ とう けん えつ

佐 藤 健 悦·画

©KENETSU SATO 2024

発行者

牧内真一郎

発行所

株式会社秋田書店

〒102-8101 東京都千代田区飯田橋2-10-8 ☎編集(03)3265-1326 販売(03)3264-7248 製作(03)3265-7373

印刷所

大日本印刷株式会社

Printed in Japan

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。 本書を代行業 者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化すること は、たとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

(禁/無断転載・放送・上映・上演・複写・公衆送信・Web上での画像掲載)

ISBN978-4-253-32008-5

デジタル版 2024年発行 製作所 デジタルカタパルト株式会社 https://www.digital-catapult.com